



5月24日 月曜日

茨城新聞社

〒310-8686 水戸市笠原町978-25
電話 (029) 239-3001(代)
http://ibarakinews.jp
編集局 電話 (029) 239-3020
FAX (029) 301-0362

購読申し込みは
☎0120-029-218
(平日午前9時～午後5時)



- 16 産廃処分場巡り市民集会
- 3 福祉避難所運営で新制度
- 5 照ノ富士連続V網とりへ
- 14 住井すゑの言葉を冊子に
- 15 自然公園整備の活動記録

- 17 子どもに最高の本届け
- 19 小美玉で高齢者に誤接種
- 論説 3 経済 10 生活 12
- 囲碁将棋・小説 12 文化 13
- 地域 14 15
- 茨城子ども新聞

洪水や土砂崩れ懸念

日立で反対集会 谷間の危険性指摘

県関与の新たな産業廃棄物最終処分場の候補地として、県が日立市諏訪町の採石場跡地を選定したことを巡り、建設に反対する市民団体の集会在23日、同市千石町2丁目の多賀市民会館で開かれた。茨城大名誉教授の鈴木鐸士さんが講演し、唐津沢が流れる候補地周辺の地形から集中豪雨が降った際の洪水や土砂崩れの危険性を指摘、「(計画を)阻止するしか手だてがない」と訴えた。

集会を開いたのは県産業一表。約50人の市民が参加する連絡会(荒川照明代) 鈴木さんは同市在住で、



産廃最終処分場建設に反対する集会で参加者を前に講演する茨城大名誉教授の鈴木鐸士さん=日立市千石町

県の資料や独自の調査などに基づき解説した。候補地は唐津沢がある谷間に位置し、三方が山に囲まれた地形であることを踏まえ、鈴木さんは唐津沢の降水域は広く、雨水が周辺から処分場の敷地内に流れ込むのは避けられないと説明した。

その上で、埋め立て終了後を含め、集中豪雨を想定

した対策は不可欠と強調。県は敷地内に防災調整池を設置するとしているが、「(雨水が最終的に流れ込む) 鮎川の流下能力はもともと余裕がなく、洪水を起すかもしれない」と指摘。周辺の土砂崩れなども懸念されるとした。

質疑の中で「埋め立てる処分場を屋根で覆うなどする密閉型はどうか」との質問に対し、鈴木さんは「雨は低い方に流れるため、密閉型にしても) 洪水対策としては効果がない。皆さんがこつした方がいいと提案しても失望することになる」との考えを示した。参加者からは「専門家がもつ

と(適地ではない)とアピールしてほしい」との意見も出された。

同連絡会は署名活動を継続しており、これまでに1万4700筆以上が集まっている。市に近く、3次分を提出する方針。6月19日には日立市民会館でシンポジウムも予定している。

(川崎勉)